ペスタロッチー教育賞
受賞者紹介

NHK名古屋放送局
「中学生日記」制作スタッフ

ＮＨＫテレビ番組「中学生日記」は、昭和４７年（1972年）４月に始まり、現在、ＮＨＫ総合チャンネルで毎日曜日１３時３０分まで放映されている。その前身番組である「中学生次郎」などを加えると、本年で３５年に及ぶ長寿番組であり、一貫してＮＨＫ名古屋放送局が制作にあたっている。

番組の舞台となっているのは、架空の「名北中学校」の各１クラスであるが、２年生と３年生ほとんどの出演中学生たちの生素人である実際の生徒を土台にして作られる生しい体験、考え、悩みドキュメンタリー・ドラマと言える。

映像文化としての優秀性に対し、平成７年度児童福祉文化賞、第２２回教育番組国際コンクール日本賞が与えられているが、この番組の制作態度と長期にわたる放映は、以下の諸点において現代日本のきわめて意義ある一つの教育活動ないし教育運動として評価される。

第一は、取り上げられるテーマの社会的・心理的な今日性である。例えば、当初から取り上げられた受験、進学、異性、友情、親子、家族、教師、校則など、さらに最近の非行、エイズ、いじめ、不登校などは、今日の中学校や家庭が抱える焦眉の教育テーマである。しかも、問題の多義性を考慮してできるだけその提起にとどめ、中学生や視聴者自身が問題を考えるヒント、励ましとなるよう、性急な結論、解決を求めないことも評価される。

第二は、制作過程の教育性である。すなわち、大勢の地元の中学生たちが「名北中学生」とし